

2月から国際宇宙ステーションに長期滞在する宇宙飛行士・若田光一さん(45)が木曾地方の木曾ヒノキ製うちわを持っていくことになった。飛行士が10点持っていくことが認められる公式飛行記念品(OFK)の一つに、森林保護のシンボルとして選んだという。



若田光一さん

うちわは、南木曾町の製材業柴原さん(49)が製作しているもので、長さ約35センチの軍配型。需要が減り続ける国産材への親しみを増やしてもらおうと3年前に、武田信玄の軍配からヒントを得て「ヒノキの軍配

若田さん「公式飛行記念品」

若田さんのサイン入りの木曾ヒノキ製うちわを手にする柴原さん

木曾ヒノキ製 うちわ宇宙へ

れをきっかけに、林業に注目してもらえれば」と話している。



うちわとして商品化した。柴原さんは、製材業の傍ら、静岡県内の荒れた山林約120㌔を私費で買って手入れをするなど、森林の整備に力を注いできた。そんな取り組みを、知人で日本宇宙フォーラム参加の寺門邦次さん(66)が若田さんに紹介。若田さん自身、かつて鹿児島県内に先祖代々の山林を所有していたこともあって、柴原さんの思いに共感し、うちわをOFKに選んだ。

ガスなどの発生を防ぐため、真空パックして持って行き、地球帰還後は、米航空宇宙局(NASA)の飛行証明書とともに、長野県に贈られる予定だ。

若田さんは寺門さんに、「伊勢神宮にも使われる木曾ヒノキを宇宙に持って行くことは、地球環境問題を考える上で意義があると思う」と話したという。

柴原さんは、「地面に根っこを張る木が宇宙に行くなんて不思議な気持ち。こ